

Aさん 【 北海道大学 医学部 医学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

家族に医師が多かったため小さい頃から医師になる夢をぼんやり抱いていた。中学、高校で本格的に進路を決めるにあたり、本当にそれが自分のやりたいことか悩んだこともあったが、仕事のやりがいや患者さんとの関係を見て、やはりずっと憧れてきた医師を目指そうと決めた。そして、医師として尊敬する父、祖父の母校で自分も学びたいと思い、志望校を決めた。また、北大には新渡戸カレッジという、留学用の勉強ができる学部並行型のゼミがあり、非常に魅力を感じ、志望理由の1つとなった。

志望校を決めるときは、選択の指標となっている偏差値ではなく、本当に行きたいのはどこなのか、自分の気持ちの変化も大切に、時間をかけて考えて目標に据えると良いと思う。

2 学習計画とその内容・方法

中学校の頃から、考査は全教科むらなく勉強した。高1まで塾には通わなかったが、化学のみ高2から受講した。授業の形式や先生が自分に合っていたし、そこで得た仲間と切磋琢磨することも非常にモチベーションになった。大の苦手だった物理も塾を検討したが、自分がわかっている問題の解説を聞く時間を浪費に感じ、通わなかった。問題集は、リードα、良問の風、名問の森を使った。疑問があれば必ず学校の先生に質問に行き、解決した。洛北では物理の全範囲が終わるのが遅めなので、習った日中にリードαと良問の風、考査前には2、3周目と名問の森、というペースで、なるべく早く自分のものにできるようにした。塾に通っている人が早いうちに全範囲習っているのを見て不安になることもあったが、毎日確実に積み重ねるようにした。

北大の過去問は10月ごろから徐々に取り組んだ。初期の頃はいつも使っている問題集に飽きたら気分転換で赤本、という感じで使った。時間は本番より短めに設定して必ず計るようにした。

共通テスト模試では国語と地理が足を引っ張っていた。国語は、学校でセンターの過去問や共テ対策問題集を扱ってくれたのでそれを有効活用し、出てきた単語や文法を確実に覚えるようにしたら徐々に伸びていった。それでも古典は苦手だったので、冬休みから、解いていない年度の過去問等を使って、毎日1つは古典を読むようにした。そうすると徐々に頭が慣れていき、本番まであげていくことができた。地理も、地理学概論でセンター過去問を沢山解くことができた。様々な勉強方法を考えたが、最終的に、出てきた情報を白地図に書き込んでまとめていく方法におさまった。ビジュアル的にも頭に残るため、非常に良かった。地図帳に書き込む人もいるし、一問一答的に単純暗記する人もいる。試行錯誤しながら、自分に合う勉強法を見つけてほしい。

実戦模試や大学別オープンではランキングに載る人も出る中、自分は思うように結果が出ず、やることが本当に正しいのか不安になることが何度もあったが、都度教科の先生や先輩に相談することで、解決策を見つけることができた。

3 後輩へのアドバイス

塾は受験の必要条件ではないと思う。自分にとって必要な教科については検討して良いと思うが、目的が不明瞭な状態でとりあえず塾に頼るくらいなら、学校を十分に生かし、自分で組み立てて勉強した方が何倍も効率が良い。また、洛北は共テ、二次対策共に丁寧にやってくれる。2月からは必修の授業がなくなり補習になるが、どの教科もレベルの高い問題を用意してくれた。教科によっては志望大学別に問

題を用意してくれて、非常に役に立った。英作文も丁寧に添削をしてもらえた。自分がいつも使っている問題集だけでなく、初見の問題を解くことは良い実践練習になる。ぜひ学校を有効活用して、最後までやり抜いてほしい。

また、今回総合型選抜（旧 AO 入試）で合格をいただいたが、それは私が何か一芸に秀でていたからではない。中高を通じて、グローバル研修旅行、ELCAS、関西科学塾、ひらめきときめきサイエンス、研究室訪問、サタプロやサイエンスワークショップなどに参加したことにより、多様な学びを経験できたからだと思う。実際、他大学を含め今年総合型選抜で合格した同級生のほとんどが、グローバル研修に参加していた。そして多くが、学校を皆勤している。このことから、学校にしっかり通い、学校内外の取り組みにも積極的に参加することは、結果的に大学受験準備につながり、総合型選抜を受験するきっかけにもなると言えると思う。新型コロナウイルスの影響でそのような機会は減っていると思うが、オンライン開催だからこそ参加できるものも多いと思う。ぜひ情報収集に努め、様々な分野のイベントに参加してほしい。そして、自分の気持ちの浮き沈みもうまく受け止めて、心が折れない程度に受験期を乗り越えてほしい。

Bさん 【 京都大学 教育学部 】

1 志望校の決定の過程やその志望理由

自宅が京大と近く、身近にあった大学だったため、中学生ぐらいのときから漠然と京大に行きたいと考えていました。高校に入って本格的に進路について考えはじめいろいろな大学について調べる中で、京大の教育学部で学べる内容が自分が興味をもっている分野といちばん合うと感じ、自宅から通えて自分がおもしろいと思うこと学ぶことができ、たくさんのおもしろい人に出会えそうな京大の教育学部こそ自分が行くべき大学だと思い、高1の2月ごろに志望を決めました。また同時に、教育学部の一般入試での理系の募集人数が少ないため受験機会を増やしたかったのと、試験方式が自分に向いていると感じたため特色入試を受けることを決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私は特色入試で合格したのでその対策としてしたことについて書きたいと思います。学部によって異なりますが、私の学部は一次で書類審査、2次で面接と筆記試験、それらを通してさらに共通テストで8割以上の点数をとると合格という方式でした。

まず、書類審査で中学・高校時代に参加した活動について書くためにポートフォリオを活用しました。高1のころはポートフォリオを書くのが面倒であり役立つとも思わなかったのですが、特色を受けると決めてから中学時代の活動にまでさかのぼって活動の内容やそれを通して何を学んだかを書いていきました。実際に書類を作成するにあたって読み返してみると自分が忘れてしまっていた活動や参加した当時に感じたことの記録が意外とたくさん残されていて、とても役立ちました。ポートフォリオに加え、活動に参加したときにもらった資料など参加したことの証明になるようなものは残しておくといと思います。

次に志望理由や大学でやりたいこと、大学卒業後にやりたいことを書く書類と、その内容について深掘

りされる面接の対策として、情報収集に力を入れました。書類の書くスペースが大きかったのと面接の時間が30分と長かったことから書ける内容、話せる内容を多くもっている必要があると思ったので、大学案内やアドミッションポリシーを読んだり大学の教授のインタビュー記事などを探して読んだりして京大教育学部が特色でどんな学生をとりたいたのか考え、それに自分が当てはまっていることをアピールするための材料にしました。京大の場合、「ザッツ京大」というサイトにいろいろな教授や学生のインタビューなどが載っていて普通に読むだけでもおもしろいのでぜひ調べてみてください。また、自分が大学で学びたいと思っている内容についての本を読んで覚えておいたら使えるかもしれない情報や知識を書きためました。さらに、私はあるサタデープロジェクトの企画に参加したことがきっかけで将来やりたいと思うことができたので、そのときの講師の先生に連絡をとってその分野について詳しく教えていただきました。

3 後輩へのアドバイス

私は高校生になったときに習い事の先生に「大学受験のために高校に行くのではないのだから高校でしかできない経験を最大限楽しんでほしい」と言われたことから、習い事や部活、課外活動など自分がやりたいと思ったことを全部やろうと思って3年間過ごしてきました。受験勉強も大切ですがそこだけに集中するのではなく、志望大学に行くことも自分がやりたいことのうちのひとつだと捉えていろいろなことに首を突っ込んできた結果、とても充実した高校生活を過ごすことができたと思います。考え方ややり方は人それぞれだと思いますがぜひみなさんにも自分が楽しいと思える高校生活を送ってほしいです。

Cさん 【 京都大学 文学部 人文学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

中学生の時からなんとなく京大に憧れていましたが、明確に目指しはじめたきっかけは、高1のときにオープンキャンパスや11月祭に行き、大学の雰囲気に刺激されたことです。学部は、複数の方面に興味があったことから高3の夏まで悩みましたが、一番関心のある言語をはじめとして学びたい分野が多く含まれていたことから文学部を選びました。

2 学習計画とその内容・方法

高2の冬までは、受験のための勉強というよりは、考査を基準にして学校の授業内容を定着させることを意識していました。日々の勉強も予習復習中心で、考査前に集中して勉強をしていました。高2の冬から予備校に通いはじめ、過去問は高3の秋頃から教科ごとに習熟度に応じて解きはじめました。

計画は、1週間を目安にやるべきことを書き出して、それをもとに1日の計画を当日に立てていました。家で集中しづらかったので塾の自習室に通っていましたが、直前期は塾との往復時間がもったいないと思い、気が散るものを遠ざけて家で勉強しました。また、通学時間が長かったのでその間に英語や古文の単語を覚えるようにしました。単語を覚えるのは面倒かもしれませんが、覚えておけば読解の精度がかなり上がります。

勉強方法としては、多くの問題集に手を出すのではなく、塾のテキストや学校で不安だった問題、大学

別模試を丁寧に復習し、1つの問題からなるべく多くを吸収できるようにしていました。

共通テストに向けて本格的に勉強しだしたのは高3の12月頃からでしたが、もう少し早くからやっておけばよかったと思います。国英は二次対策をしているうちにある程度解けるようになっていたため、あまり時間をかけないようにしました。数学は問題演習を繰り返しましたが最後まであまり点数が伸びず、他の教科でカバーすることに意識を切り替えました。理科社会は、学校で演習の時間をかなりとってもらえたので、そこでやった問題の復習を欠かさないようにしていました。よく言われることですが、正解不正解だけでなく、なぜその選択肢だけが正解となるのかまで理解することが大切です。どの勉強においても、問題の解きっぱなしが1番もったいないと思います。

3 後輩へのアドバイス

私自身の後悔から2つお伝えします。まず、教科ごとの勉強時間の偏りに注意してください。私は、好きで得意だった英語にばかり時間をかけてしまって、数学や世界史を納得いくまで勉強できず、本番を不安なまま迎えることになりました。また、本番での時間配分を意識した勉強をしてほしいです。反対に、やっておいてよかったことは、自分がミスしやすいところ、本番で気をつけたいことをパッと見られるようにまとめておいたことです。

受験勉強は思うようにいく方が少数派です。焦ってしまうこともあると思いますが、適度に息抜きをしつつ、自分を信じて頑張ってください。心から応援しています。

Dさん 【 京都大学 文学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

小さい頃から源氏物語や百人一首など、日本の古典文学が好きだった私は、具体的な進学先を考え始めた高校一年生の頃、既に藤原公任という歌人に夢中でした。古典文学の聖地ともいえる京都の地で、彼の勉強がしたい。さらに圧倒的なネームブランドも魅力だったことから、最初から京大以外眼中にありませんでした。

2 学習計画とその内容・方法

塾に通っていなかったため様々な参考書を使用してきましたが、その中でも特にお薦めのものを紹介しつつ説明したいと思います。

国語に関しては、好きな教科だった分、高一の時にとにかく力を入れました。高一の間は時間にも心にも余裕があり、主要3科目に集中できる1年です。そのため、この間に好きな教科を思う存分伸ばしておくべきだと思います。どれか1教科が全国で戦えるレベルにまでなっていれば、総合でもかなりいい成績を取れますし、高二以降にその得意教科が得点源になるので安心して苦手な教科や新しい教科に集中できます。

数学は、高一、高二では青チャートを使用していました。途中までは漫然と解き進めていたのですが、高二の夏休みに一気集中でIAとII Bの2冊を一通り終わらせ、その後の半年でexerciseを進めた結果、高三になる頃には過去問に取り組めるだけの基礎が身につけていました。高三になってからは「世界一わかりやすい京大文系数学」、「上級問題精講」、過去問(青本)を使い、受験を迎えました。難易度も前

記の順です。また、問題に取り掛かる前にはまず、数字を代入してみたりいくつかの方法を試してみたりなど、段階を踏むのが良いと思います。この方法を取り入れるだけで数学の正答率が格段に上がりました。

英語は、他の教科に比べて特別に何かした記憶はありませんが、その代わりに、学校の授業に人一倍真剣に臨みました。学校の授業や考査を軽んじる風潮がありますが、毎日予習で英文の構文解析と和訳をし、考査前には和訳から英文に直す練習をすることで、確実に英語の力を伸ばすことが、私は出来ました。ただ単語に関して言えば、志望校に合わせて自分で単語帳を選んで取り組んだ方が良いと思います。私は高三の夏までデータベースしか使っていませんでしたが、流石に語彙の少なさを看過できなくなり、そこから1ヶ月はシス単を、半年弱で鉄壁を使って学習しました。もう少し早くから始めればよかったとかなり後悔しています。

3 後輩へのアドバイス

一番伝えたいのは、高一から頑張ってきた人は強い、ということです。高三は受験で忙しいから高二までに遊んでおこう、という言葉をよく耳にします。勿論、部活や趣味を満喫した上で、かつ志望校に合格することは理想ではあります。しかし、それらを諦めなければ合格できない場合が往々にしてあります。私自身も、高二的夏に大好きだったかるた部を辞めました。当時は辛かったですが、今となっては何の後悔もありません。大好きだったからこそ、それを諦めてまで勉強することに価値を見出せたからです。

第一志望に受かることだけが成功だとは言いませんが、志望校の変更を余儀なくされていたら、或いは不合格だったら、少なくとも私は、今ほど晴れ晴れしい気持ちで卒業できていないだろうと思います。皆さんが、後悔の無い高校生活を送れるよう願っています。

Eさん 【 京都大学 薬学部 薬学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

まず京都大学に入りたいなと思ったのが私は小学生の頃でした。高校生に入って真剣に志望校を考え始めたときにも、「やりたいことのために」京都大学に行くというよりも、直感的に「京都大学に行く」という思いが強かったので、そのときに1番興味があった薬学部があることを確認して京都大学を志望校に設定しました。

正直なところ、高校2年生で大幅に成績が下がってしまって、高校3年生ではもう国公立の薬学部合格できればどこでもいいかという気持ちになった時もありましたし、志望校を下げることで合格の可能性をあげることもできたと思います。しかし、合格できてもその選択をしたことに将来後悔をするような気がしたし、一般入試での合格可能性が低いのなら、特色入試を受けてみるのも1つの手だなど思って結局最後まで志望校は京都大学薬学部にしていました。共通テスト後も、自己採点の結果的にはボーダーをギリギリ下まわるぐらいだったので、せっかくならチャレンジしようと思って受けることにしました。

2 学習計画とその内容・方法

私は特色入試で合格したので、その勉強法などについて言いたいと思います。

高1高2は授業をしっかり聞いて予習復習することと、テスト期間に勉強することをしていました。点数と順位を競う友達がいたのでずっとモチベーションを保てました。この時から洋画などのおかげで英語は得意でした。高3になっても最初の方は受験生の自覚がなかったので、1年生や2年生の時と同じようにしか勉強していませんでした。しかし3年生の9月からやっと本格的に受験勉強をはじめ、TOEFLが9月中に必要だったので9月はひたすら英語の勉強をしていました。薬学部の特色入試では私の得意な英語の試験があり、さらにTOEFLも利用できることを知り、特色入試を受けようと決めました。TOEFLが終わると切り替えて考査や受験勉強に打ち込みました。さらに12月の特色入試の2次試験のために、過去問を解いたり、医療系の英単語を覚えしました。面接の練習も先生に2回、友達には10回以上やってもらって、下調べを完璧にして、準備が万全の状態試験に挑みました。2月中旬まで合否が分からないので、そこからは共通テストと二次試験対策として苦手教科にひたすら時間をかけました。高3の冬休みは95%を共通テスト対策に回しましたが、特に苦手な数学と物理は本当の基礎からやり直しました。

3 後輩へのアドバイス

模試の結果が良くなかったり、自分だけ塾に行っていなかったりして不安になることが多々あると思います。しかし、そこで周りに流されて新しいことをしようとして今まで積み上げてきたものが崩れてしまったりはもったいないので、自分にとって新しいことをすることが必要なのかについてよく考えてから行動に移すのが良いと思います。また、何があっても前向きに考えて自信を持つことが、受験当日まで役立つと思います。あと、得意教科を1個作ることで高めあえる勉強仲間を見つけるのはとても大事です。

Fさん 【 東京工業大学 物質理工学院 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私が東工大を志望した理由は研究内容です。もともと電気電子工学と電気化学に興味があり、小学生のころから電池を作ったり電子工作をしたりして遊んでいました。そして、いつ頃だったかは覚えていませんが、全固体電池について取り上げ、東工大で取材をしているテレビ番組を見ました。当時、イオンが固体を通り抜けるということを信じるのができなかった私は全固体電池に興味を持ち、その研究に関わりたと思いました。その後、受験校を考えていた時にそのことを思い出し、オープンキャンパスに参加したところ、講義や学生とのディスカッションが楽しかったということもあり東工大を志望することにしました。そして、高3の時に受験機会を増やす為に総合型の受験を決めました。

2 学習計画とその内容・方法

高1、高2の間はほとんど受験勉強を意識することなく文化祭、実験、研究、大会、登山に打ち込む生活をしていました。普段の勉強は、理科に関しては授業内容をしっかりノートにとり、先生の話の中で「これは面白い」と思ったことを全てメモし、それに対して自分なりの考えを出すということの繰り返しと課題しかやっていませんでした。そのほかの科目は課題のみをやりました。考査前も同様です。問題集は理系の苦手分野でない限り1回しか解いていません。

高3の春の新型コロナ休暇では高1高2の復習と高3理科・数学の予習をしたり、部屋を片付けたりし

ました。6月から9月初めまではポスター発表と論文作成で朝までオンライン会議をやっていたので、勉強をすることができませんでした。

そして、10月考査後から本格的に受験勉強をはじめ、12月頃には本格的に共通テスト対策をはじめました。共通テスト対策は英語と国語が苦手だったので、英語と国語の共通テスト予想問題集をやりました。また、少しでも点数を稼ぐために地理の過去問も12月末から始めました。2次対策としては10月、11月、1月末、2月で東工大15カ年シリーズと赤本を解きました。総合型選抜の一次試験結果が出た頃からは総合型選抜の過去問と先生に頼んで口頭試問の練習をしました。

試験前日は、何を聞かれてもいいようにと思い、ラプラス変換や微分方程式の解法、全固体電池について調べていました。

3 後輩たちへのアドバイス

私からは二つ話をしておきたいと思います。

一つ目は受験校の決定についてです。受験校は地域・環境・コロナに関わらず幅広い選択肢の中から選ぶのがいいと思います。特に、最近はコロナの為、オープンキャンパスをオンラインで行う大学も多いと思うので、実際にオンラインで参加して大学を選ぶのも良いと思います。

もう一つは体調面についてです。私は、高2の2月ごろから、不規則な生活の所為か、めまいや頭痛に悩まされることが多々ありました。それは高3の秋ごろまで続き、部活を引退した後から23時就寝、7時起床を守りながら生活していると徐々に治ってきました。この症例が必ずしも皆さんに当てはまるとは限りませんが体調を崩すとかえって勉強効率が落ちるので体調面には十分注意して受験勉強に励んでください。

Gさん 【 大阪大学 外国語学部 フランス語専攻 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は1年生の時に大阪大学外国語学部に行きたいと考えるようになりました。それは、言語学を学びたいと思ったからです。生まれてから3ヶ国語を話す環境で育ったので、小学校高学年くらいからは言語の特徴や相違点について考えるようになっていました。大学では、言語の構造や変遷、言語同士の関連性などについて学びたいです。また、フランス語を専攻した理由は、幼い頃からフランス映画をよく観る機会があったので、文化や芸術、特に言語にとっても惹かれるようになったからです。ですが、2年生の夏頃から、家から近くて言語学も学べるという理由で京都大学文学部を視野に入れるようになりました。3年生の1月まで京都大学の勉強をしていましたが、共通テスト後の担任の先生との最終面談で的確なアドバイスをいただき、本当に自分が学びたいことを冷静になって考えた結果、大阪大学を受験する事にしました。

2 学習計画とその内容・方法

私は今まで塾に通ったことがありませんので、学習方法は、学校の毎日の授業や定期考査に真剣に取り組むことと、家で授業の復習をすることです。そして、テストや模試で間違ったところを勉強し直すという事を繰り返しました。予習はあまりしていませんでしたが、必要だと思う時だけ、その科目の授業中の

空き時間などを利用して済ませていました。3年生になってからも、学校の定期考査の勉強は受験勉強になると考えて、変わらず真剣に取り組みました。3年生の冬くらいまでは二次試験の対策に重点をおいて、共通テストで使う科目の基礎固めも並行して行いました。具体的には、やはり教科書を読み込む事と、二次の過去問の演習です。11月頃からは、共通テスト対策中心の勉強に切り替えて、センターの過去問や共通テストの予想問題などで演習を繰り返しました。この時、二次問題の感覚を忘れないために、ペースを落としてでも二次対策は続けました。共通テスト後の2月からは、大阪大学の問題を毎日大体1年分ずつのペースで解きました。解いた過去問は必ず学校の各教科の先生方に添削していただきました。2年生のときに初めて大阪大学の赤本を見たときはひるんだのですが、それまで、京都大学の為の勉強をしていたおかげで、共通テスト後、大阪大学の過去問が思っていたよりも解けるようになっていたのには、自分でも驚きました。それと、二次試験前の自由登校の時期は、できるだけ学校に登校して勉強するようにしました。共通テストや私立入試が終わってからの時期は、疲れていてやる気が出ないこともありましたが、教室でたくさんの友達と勉強することで自分も頑張ろうと思えましたし、友達と休憩時間やお昼ご飯を一緒に過ごすことにより、迫ってくる二次試験への不安や緊張感をほぐすことが出来ました。また、堂々と遅れて登校できたり、まだ4時間目が終わっていないのに食堂に行けたりなど、普段とは違う学校生活が出来て結構楽しいので、直前の2月は、家で1人で勉強するよりも登校するのを断然おすすめします。

3 後輩へのアドバイス

私は、勉強は量より質が大事だと思うので、自分が集中できる時間内にしっかり勉強して、集中が切れたらダラダラ勉強するより、潔ぎよく休憩する方が良いと思います。私の場合は、マンガを読んだり、音楽を聴いたり、踊ったりして気分転換を図っていました。それから、受験本番でどんな問題が出ても対応出来るように、志望校の問題だけでなく、少しレベルの高い大学の問題を解く事、それから、これは担任の先生に教えていただいた事ですが、クセのある文章を出題する大学の問題などにも慣れておく事は、とても大事だと思います。それと、洛北高校には素晴らしい先生方がいらっしゃるので、勉強や受験に関するどんな質問にも、ぴったりのアドバイスをいただけます。例えば、自分の各科目の弱点が漠然としている場合なども、そのまま質問すれば教えていただけると思います。なので、どんどん自分から質問しに行ってください。私は、そうしました。時間はたっぷりあります。洛北高校卒業生のひとりとして、これからのみなさんを応援しています！

Hさん 【 大阪大学 法学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

中学生の頃から漠然と難関国公立大学に行きたいという思いは持っていましたが、成績は全くそれに見合うものではなく、平均点を採れたら万歳というくらいのレベルでした。

高校に入学し関西の難関国公立大学の情報を調べ、オープンキャンパスや学祭に行ってみて、大阪大学の雰囲気、最も私の肌に合っていると感じました。学部に関しては、私は色々なことに興味をもつ性格であることから、受験直前まで決めかねていましたが、文系学部の中でも比較的将来の展望が持ちやす

い法学部を選択しました。総合型選抜入試(旧 AO 入試)での受験に関しては、高校3年生の初夏に決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私の家では、高校に入ってお小遣い制度が定額制から定期考査の成績に応じて決まる制度に変わりました。不純な動機かもしれませんが、それがきっかけで、勉強に対するモチベーションが一気に高まりました。その制度下で、当初はお小遣いがマイナスや0円の月もありましたが、高校1年生の冬頃には安定的に平均点を取れるようになり、2年生、3年生では、飛躍的に定期考査の成績が伸び、その結果に強い喜びを感じました。しかし、定期考査の成績と違って模試の成績は伸び悩みました。学校の定期考査の勉強と、受験の勉強は違うものなのではないかと疑うこともありました。定期考査は範囲が決まっています。頑張って勉強すれば点数が取れますが、模試は範囲がなく、有効な対策方法が分からないまま2年生が終わりました。ここで新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めました。2年生から3年生にかけての3月、4月、5月の3ヶ月が「コロナ休み」となり不安に感じた中、自宅で、全教科手当たり次第に参考書や問題集を買って、毎日10~12時間ほど勉強をしました。例年、受験生は夏休みが勝負だと言われていますが、今年は夏休みがなくなるという噂を聞き、「コロナ休み」での勉強は大きなアドバンテージになると考え、私は自分が合格した時の姿のみを想像し、一心不乱に勉強に励みました。その結果、3年生の初夏には共通テスト模試で、志望校のA判定が取れました。夏が過ぎる頃から冠模試の過去問を始め、秋の冠模試ではA判定で全国版の冊子に名前も掲載されました。一般入試対策はそのようにしていましたが、それと並行して3年生の秋頃から総合型選抜入試対策も行っていました。書類の添削や面接対策も私自身が納得いくまでとことん追求し、また、多くの方々に模擬面接や提出書類の確認をして頂き、自信を持って受験当日に挑め、結果、合格を勝ち取ることができました。

3 後輩へのアドバイス

総合型選抜入試は、受験の機会が増えるというアドバンテージがある一方、多くの書類を極めて多忙な秋に提出しなければならないという大変苦しい部分もあり、難しい選択を迫られます。また、合格発表が前期試験の1週間位前で、その結果に動揺しないという自信のある方にお勧めします。その自信は、当然のことながら、仮に不合格の際、前期試験で絶対に合格ができるという強い気持ちです。軽率な言葉かもしれませんが、総合型選抜入試は、合格できればラッキーとの気持ちでチャレンジして下さい。主に前期試験、従って総合型選抜。皆様方のご健闘をお祈りしています。

I さん 【 神戸大学 国際人間科学部 発達コミュニティ学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

僕は1年の時は強く志望する大学がなく、2年になって大学の事を調べ始めた時にやりたいことが明確に決まっているわけでもない自分には1回生の時に複数の事を学んで2回生で自分に合うと思った事を専攻していく学科が1番向いていると思い、2年の途中で神戸大学国際人間科学部発達コミュニティ学科を志望し始めました。そして2年の夏にオープンキャンパスに行き、神戸大学からの景色や楽しそうに活動している学生を見てここで学びたいという気持ちが強くなりました。

2 学習計画とその内容・方法

自分は1年の時は学校での勉強に力を入れようと決めていて定期テストの勉強は特に力を入れていました。部活動もしていたため最初は時間の使い方にとっても苦労しました。通学が長いというのもあって家にいる時間が短く勉強時間が確保できない状況に陥りました。しかし通学が長い分、通学時間だけでも勉強したらそれだけで周りより勉強時間が確保出来ると考え、2年の夏ぐらいからは電車では英単語などを覚えてました。3年になったときには緊急事態宣言により学校にも行けない日々が続きましたが友達と勉強時間を管理するアプリでお互いに切磋琢磨しながら勉強を続けることができました。そのおかげで英語の文法や単語、古文単語や漢文句形、漢字などの基礎が固まったように思えます。学校が再開してからは部活動に主に力を入れてましたが最低限の勉強は行うようにしていました。部活を引退してからは特に国英を中心に問題集、過去問などに取り組みました。国語問題集を解いて解説を熟読する。英語は長文演習や音読の練習などをしていました。

3年の秋からは社会と理科の勉強に重きをおいてやりました。社会は一問一答をひたすらしてから教科書を読んで流れを掴むということを繰り返し、理科基礎は教科書などで単語を覚えてから過去問を繰り返しました。11月に大学別模試があったのでそれが終わってからはひたすら共通テスト対策をして共通テストが終わってからもう1度2次試験対策をし始めました。勉強法はたくさんあるのでこれはひとつの例として参考にし、自分に合う勉強法を見つけることが大切です。

3 後輩へのアドバイス

自分は3年の夏までにある程度の基礎は仕上げていたのでそこから問題集を解く勉強が多くなったが、その中で覚えていたはずの単語が抜けていて直前に覚え直す羽目になったので単語は一旦覚えても復習を怠らずにしていけばよかったと後悔しています。また志望校が決まったらまずその大学の過去問を解いてみるべきだと思います。その時点では解けないのは当然です。それを解けるようにするための勉強を考えるためにも早い段階での過去問演習は必要なことだと思います。受験生を振り返って自分は定期テストの勉強を真剣に取り組んで本当に良かったと思っています。社会などは正直何回覚えても忘れてしまいます。でも1度覚えたものは忘れても思い出しやすく、楽に感じたので何の勉強をしたらいいかわからないという人はまず学校の授業の復習などをおすすめします。自分を信じて最後まで諦めずに頑張ってください。応援しています。

Jさん 【 京都工芸繊維大学 工芸科学部 設計工学域 機械工学課程 】

1 志望校決定の過程や志望理由

高校2年の冬まで、大学については国公立理系工学部ということしか考えていませんでした。そんな時に担任の先生にこの大学を進められ興味を持ったことをきっかけに、大学について自分で調べるようになりました。その後は自分が勉強したいことを考え、家族や担任の先生と相談し、高校3年になるときに志望校を決めました。

2 学習計画とその内容・方法

僕は体育会系の部活動に所属していて、高校1、2年時は家では全く受験勉強をしていませんでした。

学校がコロナ休暇になった時に、自分のことを改めて考える機会が増え、このままではいけないと感じ、受験勉強について真剣に考えるようになりました。

志望校は2次試験の配点が大きかったのと、僕は記述模試の成績が良かったことから、2次試験で勝負することを考えていました。11月までは主に家では2次試験で使う教科を同じ問題集を何度も使って勉強しました。1回目は解けなかった問題も解き方を理解することを意識することで、2回目、3回目と何度も解くうちに徐々に分かるようになりました。2次試験に向けた勉強に多く時間を使ったかったので、共通テストに必要な他の教科は、授業や学校で配られる教材を使って勉強しました。共通テストに向けた勉強時間が短い分、先生の話をよく聞き、授業である程度身につけることを意識していました。12月からは家でも共通テストの勉強ををはじめました。主に過去問を使って問題の傾向を知り、解答する時間の作戦をたてて練習していました。

共通テスト後は時間が無いので、過去問で問題の傾向をつかみ、今まで使ってきた問題集で頻出の問題や苦手なところを確認しました。また英作文や記述の解答方式など自分で勉強しづらいものは先生方に添削していただき、それを参考に新たな問題に取り組むということもしていました。

3 後輩へのアドバイス

受験生としての1年間は思ったよりもあっという間で、「この教科のあれをしないといけない。」という風に何をしても「受験」が頭から離れませんでした。勉強をしても思うように結果が得られなかったり、他の人と比べてしまってしんどくなったこともありました。皆さんもこのような経験は必ずすると思います。受験のストレスは思う以上にしんどく、抱えていると勉強に支障が出てきてしまいます。そんな時は自分なりのリフレッシュ方法を見つけてください。また、誰かに頼ってみてください。自分の周りには家族や先生、そして今まで共に過ごしてきた友達がいます。受験は団体戦とよく言いますが、僕は本当にその通りだと実感しました。互いに励まし合い、分からない問題は教え合うなど協力したことで受験を乗り越えることができました。皆さんも受験のストレスと上手く付き合いながら志望校に挑戦して欲しいです。応援しています。

Kさん 【 京都府立大学 生命環境学部 農学生命科学科 】

1 志望校決定の過程

私は京都府立大学に推薦入試で合格しました。志望校を決定したのは2年生の冬頃です。

自分は生物分野に興味があったのでどのような研究、実験が行えるのかを重視してオープンキャンパスに参加しました。似たような学部、学科でも大学によって研究内容が異なったりするので自分自身で調べた情報等を整理して志望校の決定をすることが大事だと思います。自分の志望校の最終的な判断はある教授の論文を読み自身の学びたいことが学べるこの教授の研究室に入りたいと思ったことで意思が固まりました。

2 学習計画とその内容・方法

私は硬式野球部に所属し、主将を務めました。その中で言えることは「文武両道」と目標を立てることは簡単ですが実際にやり遂げるということは口で言うほど簡単ではありません。私は高校1年の頃は

学受験というものを軽視しており考査の対策も疎かでした。これから先も勉強する上で早いことに越したことはないという言葉をよく耳にしたいと思います。

特に部活動が活発で勉強時間が取れないという人は隙間時間に少しでも勉強の時間を取り入れたりして習慣付けることが大事だと思います。たかが数十分とと思っている時間も積み重なれば大きな差になります。まずは1週間でも続けてみてください。

それぞれ自分にあった勉強方法というものは違うと思います。内容も自分の学びたい分野によって違うと思います。そこで勉強時間の取り方を少し紹介出来たらと思います。

学校がある日の1日のスタイルは4時半に起床して朝勉強に取り組んでいました。自宅で1時間ほど取り組み、学校の自主室で1時間取り組んでから授業を受けていました。そして、少し時間は短いのですが昼休みを勉強時間に当てるのもおすすめです。勉強をする上で何となく勉強してる風というのは意味が無いと言われると思います。しかし私はきっかけは周りの人よりやってる風でいいと思います。ずっとやってる風でももちろん意味がありません。勉強を継続してできる友達を探して一緒に取り組んでみてください。自然と焦りが生まれるはずですが、それでも勉強に取り組めない人は無理にしないでいいと思います。自分が学びたいことがあるから大学へと進学するのです。周りにばかり合わせているようでは勉強は続かないと言いきれます。1度、自分の考えを整理してみてください。

3 後輩へのアドバイス

この合格体験記に目を通していているということは既にあなたはこれから先のことについてよく考えている、もしくは悩んでいるのでは無いでしょうか。あくまでこの体験記に載っていることは一例であり自分が何をすべきかどんな方法を取れば成績が伸びるのかそれは勉強をするしかありません。まず行動に移してみてください。そして自分の軸となるものを見つけてみてください。軸があればそこから他人の良い部分を吸収して確固たるものにしていってください。最後に、「受験は団体戦」という言葉、嘘臭く聞こえるかもしれませんが。

私も信じていませんでした。この言葉の意味に気付くのは合格が決まった時でしょう。

それでいいのです。ただあなたが多くの方に支えられているということを忘れないでください。自分を最後まで信じ抜いて頑張ってください。

Lさん 【 京都府立大学 公共政策学部 公共政策学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

2年まで神戸大学という僕には高すぎる理想を掲げていましたが、休校期間に進路について真剣に考えるようになり、実力とやりたいことを鑑みた結果、京都府立大学を目指すことにしました。のちに推薦があることを知り、挑戦する機会が増えるなら受ける価値はあると思いましたが、共通テストの勉強に手一杯だった僕にとって、推薦で必要な小論文の対策をする余裕はあるのかギリギリまで悩みました。結果的に推薦で合格することができましたが、わりかし危ない賭けだったと感じています。

2 学習計画とその内容・方法

塾には通っていませんでしたので、授業を除いた主な勉強場所は自宅でした。気が散ってしまいがちな環境

でモチベーションを維持するのはとても苦労しましたが、その分自習室や歴彩館での勉強は大変はかどりました。自分に合う勉強方法は人によって千差万別なので、僕のやり方をおすすめはしませんが、確実に言えるは効率云々より定期的な復習と分からないことをそのまま放置しない姿勢が重要だということです。便利な時代ですから使えるも使ってできるだけ丁寧な学習を心がけていました。

小論文(推薦)について僕がした2つの対策のうち1つはニュース等で知識を増やすことです。中でも重宝したのがYouTubeのテレ東newsで、政治的な偏向報道の少なさやとても詳しい解説もさることながら、世界各地の動向や新しい科学技術の解説などバラエティーに富んだ話題を扱っており、非常におすすめできるチャンネルです。もう1つは小論文の過去問を解くということです。これは校内選考が終わった10月半ばから始め、書き方や論理展開の仕方に苦労しながらも1ヶ月でそこそこ書けるようになりました。参考書を読んだりしましたが、一番有効だったのは第三者に見てもらい、客観的な意見を基に改良していくことでした。

3 後輩へのアドバイス

僕は大半の人より早めに大学が決まり、学年の雰囲気や流れを俯瞰的に見てきたので、その経験に基づいて皆さんに知っておいてほしいことを伝えておきます。9月頃になると大学からの指定校推薦や公募推薦の依頼が発表され、校内選考が行われます。指定校推薦の場合はこれを通過すれば面接等で落ちることはほぼないため、この時点で進学が決まった人が出てきます。受験を終える人が多数出てくるので、嫌でも焦りを感じます。12月にもなれば追い打ちをかけるように公募推薦の合格者が発表されます。僕もそのうちの一人でしたが今年は府立大の推薦合格者が多かったこともあり、一般で受ける人たちの焦りや不安を煽ることになってしまいました。僕が言えたことではありませんが、友人やクラスの人が次々に合格して焦るのは当たり前です。大事なのは周りに流されて自分の目標を見失わないことです。よそはよそ、うちはうちと割り切って勉強に集中して下さい。

これからの世代は共通テストの過去問があるとはいえ、まだまだ未知数であることには変わりありません。不確定要素が多い中で目標を維持し続けるのはしんどいですが将来のためになんとか頑張ってください。大切な時間を無駄にして後悔することがないように、些細なことでもいいので今すぐ何かを始めてください。今日中じゃなくて今すぐにです!!皆さんが少しでも夢に近づけることを願っております。

Mさん 【 京都府立大学 文学部 日本・中国文学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は家から通える大学にしたほうがいいと親から言われていたので「京大は無理やから京都府立大にしよう」くらいの気持ちで最初は志望校を決めていました。しかし、実際に京都府立大学のパンフレットを見たりホームページで授業について調べたりするうちに興味を持ち、高2の夏くらいからこの大学に行きたいと思うようになりました。

3年生になるまで歴史学科にするか日本・中国文学科にするか迷っていたのですが、中学生の時から古典文学に興味があったこともあり京都府立大学ならではの和漢比較や京都文化について専門的に学べるところに惹かれて日本・中国文学科に決めました。

文対策として関連分野の新聞記事を切り抜いて保存し、記事の概要と新たに知ったことをノートにまとめていました。

部活が忙しかったので、本格的に受験勉強(共通テスト・二次試験対策)を始めたのは3年生になってからです。数学と化学が苦手だったので、問題集やスタディサプリに毎日取り組みました。また、生活のリズムを整え、勉強時間を確保するために、2年生の時より1時間早く起きて勉強していました。

夏休み明けからは推薦入試対策に重点的に取り組みました。長い通学時間を利用し、志望分野の本や論文を読みました。また、国語科の先生に小論文添削をお願いし、週に2~3回のペースで提出していました。志望理由書の添削も同じ先生をお願いしました。面接対策としては、過去の受験レポートを見て、質問をリストアップしたり、志望理由書から質問されそうなところを先生に教えて頂いたりして、その回答を作りました。また、回答内容や姿勢、言葉遣いなどは先生との練習で指導して頂きました。

3 後輩へのアドバイス

部活をしている人はなかなかまとまった勉強時間が取れないと思うので、登下校の時間を利用したり、授業の予習復習を習慣化したりして、コツコツと勉強しましょう。また、継続可能なノルマ(私の場合は数学の問題集1ページ)を設定して毎日取り組むようにすると良いと思います。

目標があるとやる気が出るので志望校は早めに決めると良いと思います。偏差値や大学名ではなく、自分が興味のあることを学べる大学を探しましょう。そして、気になる大学のオープンキャンパスには積極的に参加するようにしましょう。オープンキャンパスに参加すると、各大学の雰囲気や環境がわかり、自分が行きたいと思える大学を見つけることができます。

帯広畜産大学に行くためには理系を選択しなければいけませんでした。私は国語と英語が得意で、理系科目は中学生の頃から苦手でした。勉強していて楽しいのは文系科目で、理系科目の勉強は正直嫌いでした。そのため、得意な文系を選択するか、志望校に行くために苦手な理系を選択するか、文理選択の時に死ぬほど悩みました。しかし、オープンキャンパスで見た帯広畜産大学が諦めきれず、どうしても通いたいと思い、理系を選択しました。毎日化学や数学の問題集に取り組むのは辛かったですが、徐々に上がる成績がモチベーションになり、自信にもつながりました。志望校に合格した今、改めて、あの時の選択は間違っていなかったと実感しています。文理選択で迷っている人は、志望校に通っている未来の自分の姿を想像して、苦手なことにも積極的に挑戦してほしいと思います。

〇さん 【 広島大学 医学部 保健学科 】

1 志望校決定の過程

私が志望校を広島大学に決定したのは、2年生の冬です。学びたいことは決まっていたのですが、私学には行きたくなかったので選べる大学は多くありませんでした。勉強に向き合っていなかった為、模試での成績が下がり続けており、その時から勉強を始めて間に合うかどうかのラインで志望校を選びました。しかし、新型コロナウイルス感染症による休校期間が始まり、全く勉強をしない日が多くなっていきました。そして、休校期間が明けるともう既に手遅れで、一般選抜では入るのが困難な状態でした。そんな時に目を付けたのが総合型選抜です。この選抜方式では、共通テストでの点数と面接、小論文で合否判

定が行われた為、共通テストの勉強のみに的を絞ることができました。また、私は 2 年生の時に留学を経験し、広島大学の求めるアドミッションポリシーが自身に合致していることに気づき、総合型選抜での合格を本格的に目指すようになりました。

2 学習計画とその内容・方法

私が実際に共通テストの勉強を始めたのは、休校期間が明けた 6 月からでした。普通の人よりも遅く、さらに 2 年生の時に 4 か月留学していたこともあって、周りの人達に全く学力が追い付いていませんでした。特に物理と化学はほとんど何も分からないところからのスタートで模試は、30 点代を何度も取りました。しかし、半年しかテストまで残されていなかったのも、分からないものはしょうがないと割り切り、過去 5 年分のセンター試験の本試験と追試験を何度も解いて、間違った問題はもう一度やり直していました。数学では 1・A は模試の解きなおしを、2・B は青チャートで分からない範囲の解き方を見て模試やセンター試験の問題を解きました。英語は共通テストから問題形式が変わると聞いていたのでセンター試験の過去問はせずに模試の解きなおしや予想問題集だけをしていました。私は単語帳を、問題を解いていて分からなかった英単語を調べる辞書代わりに使って、印をして復習出来るようにしていました。そうすることで分からない単語を効率的に覚えられました。地理の勉強は参考書を読んで、過去問を解くことを繰り返しました。国語は現代文の点数が安定していなかったのも、どこから答えを導くのかを過去問の解説を見て考えるようにしていました。古典、漢文では問題文の方にヒントが出てくることが多いので、古文単語や漢文必携を何周もして本文で時間を使わないようにする事で、問題文を読み飛ばすことがないようにしました。

3 後輩へのアドバイス

3 年生になると自分が思っているよりも時間の経過を早く感じます。初めの方にグダグダしていると手が回らなくなり、本当に中途半端な状態で試験に臨まないといけなくなります。私自身の体験もふまえて、せめて 2 年生の冬に少しずつ計画を立てていって、新学期の始まりと共にスタート出来るようにするのがいいと思います。

それでも、もう遅いなんてことは無くてどれだけ時間を有意義に使えるかだと私は考えています。自分が行きたい大学を見つけて頑張ってください。応援しています！

Pさん 【 鳥取大学 農学部 生命環境農学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

中学生の頃から植物に興味があり、植物の育て方や利用法、特徴について深く学べる農学部に行こうと考えていました。鳥取大学に進学を決めた理由には、植物だけでなく菌類についても学ぶことができること、国公立大学であること、実験室から農場まで施設がそろっていることなどがあげられます。また、一人暮らしになるので家賃がほかの地域と比べて安いことも魅力的でした。

2 学習計画とその内容・方法

私は推薦入試で鳥取大学に合格しました。塾は、部活が 19 時まであり、通学時間も片道 1 時間あることから、睡眠時間を減らさないためにも部活を引退するまでは塾に行っていませんでした。引退して

から、数学のみ塾に週2で行くようになりました。高1高2の時は、特に受験勉強を意識した勉強はしておらず、予習と定期考査の一週間前の勉強を頑張っていました。引退してから、放課後は極力19時まで残って勉強するようにしていました。同じ授業をとっている人がいれば分からないことがあってもきくことができるし、一人だとなまけ気味になってしまう人にとって近くに人の目がある環境で勉強できるのは利点だと思います。もしだめなら、違う方法を模索してください。授業を聞いているときは、先生が小ネタや教科書にない付け加えをしてくださる時があるのでそれをノートの端に書いて授業を思い返すときに役立てていました。あと、授業を受けていて納得してもその後見返したら、「何を言ってるんだこれは」みたいになるときがたまにあったので、理解できたその時に自分で自分だけがわかる表現でもいいので追記しておくこともおすすめです。暗記系は、音読して覚えると結構覚えられました。あとは、演習あるのみだと思います。

3 後輩へのアドバイス

興味を持ったことには触れてみてください。それがやってみたいこと、やれることに繋がっていくことがあります。もともと持っていた知識と新しい知識がつながると勉強へのやる気も出てくると思います。

あと、自分は大学の推薦なんか受けれるはずないだろうと思っている人へ。挑戦は大事です。というのも、実は私も初めから推薦を狙っていたわけではなく、高3の夏か秋ぐらいに担任の先生から提案されて初めて推薦という選択肢を視野に入れました。どうせ無理だろうと思っている人も志望校に入っている大学の推薦募集要項は確認しておくことをお勧めします。自分の好きなこと、得意なことを伝えることができるチャンスだと思います。

最後に、思った結果が出なくともくさらずに、周りの方々と協力して支えあって、ときには頼って自分が納得できる決断を下してください。健闘を祈ります。

Qさん 【 愛知県立大学 教育福祉学部 教育発達学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は元々別の大学を目指していました。しかし共通テストが思いのほか取れなかったので志望校を変更し、愛知県立大学に出願をしました。

私は中学校の頃から漠然と国公立大学に行きたいと思っていたので共通テストがダメだったとき、このままいけばほぼ必ず合格できるであろう大学に行った方が自分の夢を叶えられるのかなと思いました。それでも私は二次試験までの約1カ月、勉強する教科があったほうが自分のモチベーションになると思い、わざと挑戦校にしました。(判定はAでしたが共通テストと二次の割合がほぼ同じなので巻き返しは可能になる学校でした。)

2 学習計画とその内容・方法

私は元々数学が本当に苦手だったので自粛期間はずっと数学の基礎固めをしていました。自粛が明けて塾に行き始めると、英単語や古文単語の少なさに気が付いたのでまず単語を入れることに集中しました。英語は特に、単語を1語でも多く入れ、分構造をしっかりとれるようになれば必ず伸びます。私は元々英語がすごく苦手でしたし2年生までのGTECのスコアは笑えないほどでしたが、単語を出来る

ころまでは入れ、分構造をとれるようにしたことで英検2級を取ることが出来ました。今では一番得意な教科です。暗記系の科目は正直共通テストには間に合いませんでした。私はいい参考書に出会うのが遅く、特に日本史はかなり悪戦苦闘しました。暗記系はひたすら読み、実践問題に取り組むことが大切です。そして答えられなかった問題だけでも必ず覚えるようにしてください。

一番大切なことは復習をすることです。復習すると次の模試で解けなかった問題が解けるようになります。私は基礎を固めることから受験勉強を始めたのでみんなよりはかなり遅れていたと思います。しかし、基礎が出来ていない状態で難しい問題にあたっては絶対にできないので、焦るかもしれませんが基礎が勉強するうえでなによりも大切なので基礎を大切にしてください。学校の授業をしっかりと聞き、テスト勉強を怠らないこと、これに限ると思います。

私は記述が大の苦手だったので二次試験はかなり苦勞しましたし、特に英語は訳しても自分が理解できないほどでした。しかし大切なことは直訳でもいいのでポイントをしっかりと押さえることです。翻訳者のようにうまく訳さなくても満点は普通にとれます。

3 後輩へのアドバイス

日々の努力を怠らないこと。最後まで諦めないこと。これが必ず合格に繋がります。駄目だと落ち込むことだっていっぱいあるだろうし、私は勉強できないんだと思うこともいっぱいあると思います。まわりだって同じですから何も落ち込む必要はありません。志望校を決めるときは受かるか受からないかではなく自分のモチベーションが保てる方を選ぶべきです。なぜならやり切ったことで不合格でも後悔が残らないからです。周りの為ではなく自分のために頑張ってください。応援しています！

Rさん 【 大阪市立大学 法学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は進路を考え始めた時、将来の目標が決まっておらず、とりあえず就職に有利だろうという理由で法学部を志望しました。しかし、調べているうちにだんだん法律に対し興味が湧いてきて法学部に行きたいと強く思うようになりました。大学はもともと家から近い京都大学を第1志望にしていたのですが、高校2年生の時に大阪市立大学のオープンキャンパスに行き、学内の雰囲気などに魅力を感じ、志望校のひとつとなりました。現役で国公立に行きたいという思いが強かったため、共通テストの自己採点后、京都大学はボーダーに届いておらず諦めましたが、神戸大学と大阪市立大学が候補にあがり、何度も両親や先生方と相談して、やはり大阪市立大学への思いが捨てられなかったため、受験を決めました。第2志望の大学を受験することにはなりましたが、自分が行きたいと思える学校だったため、モチベーションが下がることはありませんでした。受験校を決定するにあたり、自分が何を優先したいのか(浪人するかしないか、国公立に行きたいかどうかなど)を考えることが大切だと思います。

2 学習計画とその内容・方法

高校1、2年では小テストや考査のための勉強を中心に行っていたため、受験に向けての勉強はほぼしていませんでした。高校3年の休校期間中も学校からの課題といった最低限のことしか勉強しておらず、家で勉強していたこともあり受験への意識が足りていませんでした。学校が再開して部活を引退してか

らは放課後に教室や図書館、塾の自習室に行って机に向かう時間を増やしました。11月ごろまでは赤本や参考書を使って勉強し、共通テストの対策は学校の授業で行う演習のみでした。12月考査が終わると共通テストの対策に特化し、苦手だった数学はセンター試験の黒本を買って、とにかく演習量を増やして時間内に解き、正答率をあげることを目標にしました。理科基礎や社会は模試や学校の先生からいただく演習プリントで間違ったところを小さいノートに簡単にまとめ、いつでも見られるようにして覚えていました。共通テストが終わってからは私立の勉強もしつつ、前期に受ける候補の大学の赤本を解き、受験校を決めてからは赤本を10年分解きました。二次試験は英語と現代文だったので、英語は学校の補習に毎日行き、さまざまな大学の問題を解いて速読力を鍛えました。現代文は学校で先生に添削していただきました。英語は共通テストでも速読力が大切になってきます。先生からは音読が力になると教えてもらい、音読を続けたところ共通テストのリーディングでは100点をとることができました。リスニングの対策にもなるので普段から音読をして文章の読み込みを速くするようにしておくと思いいます。

3 後輩へのアドバイス

私がみなさんに伝えたいことは3つあります。1つ目は、学校生活をめいっぱい楽しんでください。私たちは高校3年生という時間に経験できなかった行事や大会がありました。高校生という時間は一生に一回です。戻りたくても戻れません。だから勉強ももちろん大切ですが、1日1日を悔いのないよう全力で楽しんでください。2つ目は、悩みがあれば誰かに相談してください。受験生として過ごす中でたくさんの悩みが出てくると思います。私も特に受験校を決める時にすごく悩み、先生方や友達、先輩方、塾の先生にたくさん相談しました。しんどい時はしんどいと口に出してもいいと思います。話を聞いてもらうだけでも気持ちは軽くなります。また、自分では気づけなかった考えに出会えるかもしれません。3つ目は、自分が選んだ道をなんとんでも正解にするんだという意味を持ってください。私は最終的に受験校を変えました。この選択が正しかったのかどうかは今誰にもわかりません。しかし、それを自分の力で正解に導くことはできます。たとえ第1志望の大学に行けなくても自分なりに考えて決めた目標に向かって頑張ることができるなら、良い結果に繋がると思います。

長くなりましたが、受験生になると時間は瞬く間に過ぎていきます。私も最初は信じられませんでした。本当に現役生は最後の最後まで伸びます。適度に息抜きもしつつ、健康に気をつけて最後まで諦めず全力で頑張ってください！心から応援しています！

Sさん 【同志社大学 法学部 法律学科】

1 志望校決定の過程や志望理由

私が同志社大学に行きたいと思い始めたのは、中学生の頃です。その理由は、私の5歳上の姉も洛北高校出身で、同志社大学に進学し、1番近くで同志社大生を見て、私も同志社大生になりたいと思い始めたからです。そこから思いが揺らぐこともなく、面談で担任の先生から国公立を目指してみたらという提案も受けましたが、高校入学後最初の進路希望調査から受験前最後の進路希望調査まで、第1志望を同志社大学から変えたことはありません。

2 学習計画とその内容・方法

私はサッカー部に所属しており、高2まで塾に通わず、部活漬けで、定期考査、小テストも前日、直前、時には徹夜で詰め込み点数はある一定から伸びない、赤点ギリギリみたいなときが何度もありました。本当にこの勉強方法は間違っていて、考査が終わると何も身につけていないので、長期の受験勉強を始めようと思った時には何も頭に入っていませんでした。先生方も何度もこういった勉強方法は間違っているとおっしゃっていたにもかかわらず、自分で気づいたのは高3になってからです。部活に定期考査では一夜漬けをしていた私は、高1から高2にかけて偏差値は約10近く下がり52、世界史の偏差値に至っては43でした。当然同志社大学なんてE判定でした。高3で塾に行かせてもらい、体験授業で模試の結果を見せると、相当頑張らないと受からないよと言われ、高3の担任との面談でも、中々厳しいと言われました。しかし、受験まで1年もない中で落ち込んでいる暇はなく、本気で勉強に向き合いました。基礎すら入っていない為、英単語、古文単語、英文法、古典文法、現代文の解き方、世界史の知識を入れるという、全て基礎の基礎から始めました。本当に受験に間に合うのかと焦りは凄くありましたが、背伸びした学習をしたところで頭に入らないので、自分に合ったペースで確実に頭に入る学習をしました。過去問をやり始めたのも11月くらいからです。それまではひたすら知識の詰め込みをしていました。自習時間は平日で6~7時間、休日は10時間以上していました。隙間時間を見つけては、単語帳、一問一答を見るようにしていました。その癖をつけておくと受験当日の隙間時間も単語帳、一問一答を見ることで気持ちを落ち着かせることができました。

3 後輩へのアドバイス

受験は団体戦とよく言います。しかし、裏を返せば十人十色の様々な人が仲間にいるということです。周りの仲間にはA判定が出ている人、推薦等で進学が決まっている人、自分が目指している志望校でA判定の人、推薦の人もあります。私は同志社大学の法学部に関しては、直前までE判定でした。団体戦ではあるのですが、時には周りを気にせず、自分に向き合うことが大事だと思います。私は自分のことを信じなくなったら終わりだと思っていたので、周りから厳しいと言われても、1回も志望校を変えませんでした。高1から受験を見据えた学習を行うのに越したことはないですが、高3からでも諦めずに自分のペースで最後の最後まで頑張れば必ず実を結ぶと思います。

Tさん 【 同志社大学 法学部 法律学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は同志社大学法学部・法律学科に合格し、今年の4月から通うことになりました。まずなぜこの大学・学部を志望したかなのですが、簡潔に言うと将来弁護士になりたいという夢があるからです。これは私自身の話になるのですが、何においても「知らなくてできなかった。」ということがとても嫌いでした。例えば、スポーツをしているとき、ルールの抜け道などから不意を突かれ点を取られてしまう、などのことです。そういったことからこの国で暮らしていくのだからこの国のルール、つまり法律を詳しく知りたいと思っていたため、この洛北高等学校入学したころから法学を将来学ぼうと考えていました。そして三年の進路決定の時期になり、法学を学ぶならそれを生かして人を助けられる仕事につきたいと思い、

将来の夢を実現するためにこういった進路に決めました。

2 学習計画とその内容・方法

次に洛北は文武両道を掲げていて勉強でも部活でも高い水準を求められます。朝から練習に励み、6時限ないし7時限の授業こなし放課後は遅くまで練習です。そのような日常の中で、小テストの勉強や、定期考査の準備をする時間は限られてきます。そのような状況で私が心がけてきたことは、「やるならしっかりやる。」ということと、「迷ったらやる。」ということです。勉強時間をはっきりと決めて勉強をしていました。勉強で集中できる時間は人それぞれ違うと思いますが、このやり方は本当におすすめです。時間の間隔は例えば授業と同じにして50分勉強、10分休憩などにするのもありだと思います。また、行き帰りの電車やバスなども英単語や古典単語を覚えたりするのに使っていくことで、少ない時間を有効活用することができると思います。私は、こういった時間の積み重ねで周りの人との差を作れたと思っています。

3 後輩へのアドバイス

最後に私がこの三年間の経験から言いたいことは、何度も言うようですが「やるならしっかりやる。」ということが本当に大切です。部活でも勉強でもそうですが、だらだらと作業のようにこなすだけでは時間も労力も無駄だと思います。今はまだ時間があるからいいやと思っている方、その考えは捨てたほうがいいです。本当に一瞬で終わってしまいます。予想外の事態がいつ起こるかわからないということを皆さんも身をもって体験したと思います。なので、今できることは今やるということを心掛けてほしいと思います。後になってこうしておけばよかった、と後悔のないように今からでも一つひとつ取り組んでいってほしいと思います。

Uさん 【 同志社大学 商学部 商学科 】

1 志望校決定の過程

私は、2年生の時に卒業生からお話を聞く機会があり、学部の説明などのほかに留学についてもお話ししていただきました。そして、留学をして感じたこと、身についたことなどを聞き、私も大学に行って留学をしたいと思うようになりました。同志社大学の商学部は留学制度が整っていることに加え、グローバルに活躍できる人材を育てていると知りました。留学に挑戦しやすいところ、さらに留学で学んだことを生かしながら勉強ができるところに魅力を感じ、同志社大学の商学部を志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

私は3年間女子バレーボール部に所属していました。毎日勉強の時間を長く取るというのは難しかったので、普段は部活動と授業にしっかり集中するようにしていました。授業中に内容を理解できるようにしたり、先生の話をしっかりメモしたりしておくことでテスト前に勉強がしやすかったです。しかし、いくら授業に集中するといっても、忘れてしまっているところがあったり、深く勉強しないといけないところがあったりすると思うのでテスト前に集中的に勉強することも大切だと思います。私はほかの人よりも覚えるのに時間がかかっていたため、1週間前から勉強するのでは時間が足りませんでした。そのため、2週間程前から暗記系など隙間の時間でもできるものから始めるようにしていました。そうするこ

とで、1週間前でバタバタすることは減らせました。また、1年間教科の先生は変わらないと思うので、どんな問題がよく出ているのか理解しておくことで効率よく勉強することができると思います。また、私はわからないことがあれば先生や友達に聞くようにしていました。わからないことを自分で解決することも大切だと思います。しかし私の場合、わからないことずっと考えていると、テスト勉強が進まなくなってやる気が下がってしまっていました。他の人に聞くことで、自分では理解していると思っていたことでも、より理解が深まったり、そういう考え方もあるのかと違う考え方を知ったりすることもできました。また、点数があまり良くなかったときに、悪かっただけで終わらせるのではなく、勉強の量を増やしてみたり、覚え方を変えてみたりするなど工夫をして自分に合った勉強の仕方を見つけることが大切だと思います。

3 後輩へのアドバイス

私は3年間で努力を続けることの大切さを実感しました。しかし、続けるのは何か目標がないと難しいことだと思います。なので、達成したいことややってみたいことを何か一つでも一つ決めてみて下さい。頑張る理由があるだけでだいぶ違うと思います。高校生活でしかできないことはたくさんありますができることやできる時間が限られています。悔いが残らないように最後まで頑張り続けてください！応援しています！

Vさん 【同志社大学 文化情報学部 文化情報学科】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は洛北高校のサッカー部で全国を目指したいと思い、入学しました。そのため、部活と受験の両立を考えたときに指定校推薦という方法が自分に一番合っていると思いました。その中で指定校のリストを見て、自分が興味のあるデータサイエンスを学ぶことができる学部を選びました。私は、高校に入学した時点で先輩から指定校推薦というシステムがあることを聞いていたので、1年の時から評定を取るために継続して勉強を頑張りました。そのおかげで多くの選択肢の中から進路を選択することが出来たと思います。数ある選択肢から選ぶことが出来るということは非常に重要なことだったなと思います。

2 学習計画とその内容・方法

指定校推薦で希望の進路を実現するためには高い評定が必要です。そのため、テスト前の勉強はもちろん、毎日の授業に対して真剣に取り組むことを大切にしました。私はサッカー部に所属していて、平日は朝早くから夜遅くまで練習があり、休日も試合などで勉強時間を確保することが難しかったです。だからこそ、毎日の授業の中で内容を理解していくことがとても大事だと思います。授業で理解できているとテスト前に勉強するときでも思い出すのが楽になり、1から勉強する必要がなくなります。そして、少ない時間で点数を取るためにはどのように勉強するかも大切になってきます。私の場合、テスト1週間前から詰め込むのではなく、2週間前など少し早めから勉強し始めるようにしていました。テスト前には各教科から提出物の指示があると思います。テスト前ギリギリになって提出物に追われ、自分のしたい教科や内容を出来ないという状況になったことがある人もいます。そうならないためにも、早めから少しずつ進めていくようにしていました。提出物を早めに終わらせることで、自分の勉強に取り

組みやすくなると思います。勉強の仕方は、人それぞれに合う方法があると思いますが、私はいくつかの工夫をしていました。まず、暗記が必要になる科目においては、ただ覚えるわけではなく、内容を関連づけて覚えるようにしていました。数学など暗記だけでなく、応用する力が問われる科目では、人に教えられるレベルまで勉強することです。自分では理解しているつもりでも、出来ていないことがあります。しかし、人に教えようと思うと自分の言葉で伝える必要があり、より深い内容理解が求められます。主にこの二つを意識して取り組みました。

3 後輩へのアドバイス

スポーツ専攻の多くの人は、指定校推薦を使って大学に行くと思います。行きたい大学や学部に行けるチャンスがあるのに逃してしまうのはもったいないです。文武両道を目指すには、とてもいい環境があると思います。3年になってから後悔しても遅いです。1回1回のテストに対して本気で挑んでください。応援しています！

Wさん 【 同志社大学 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私の志望校決定において重要な要因が二つあります。まず一つ目は先輩との交流です。私は高校生活で部活動に最も重きを置いていたため、二年生になるまでは自分の進路に関して深く考えることもせず、成績も取れていませんでした。しかしある日、推薦で進路が早く決まった部活動の先輩と話す機会がありました。その先輩は私と同様に一年生時に勉強に励んでいたわけではなかったのですが、二年生から勉強に熱を入れ、成績をみるみる上げて第一志望の推薦を得ました。その話を聞き、私も今から努力すれば志望校の推薦が得られるのではないかと希望を抱き勉強を始めました。先輩からのアドバイスでスタートの後押しをしてもらったような形になり、それが周りとの差を生むきっかけになったと自分は感じます。しかし当時は、成績を上げることを目標にしていただけで、具体的な進路の目標は決定していませんでした。その決定まで至った二つ目の要因が、担任との面談です。成績を上げることに成功したものの、志望校の推薦を得るには厳しい状況でした。そこで三年生時に担任と面談をした際、私の部活動を評価してスポーツ系の学部の推薦を提案されました。今まで私の選択肢になかったので迷いましたが、運動に魅力を感じ最終決定を下しました。

2 学習計画とその内容・方法

主に二年生からの勉強法を記していこうと思います。一番重要視していたのは学校で定期的に行われる小テストです。洛北は各教科の小テストがほぼ毎日行われます。そのせいで一年生時は勉強めんどくせえと思っていました。しかし部活でも勉強でも基礎が大事なようで、小テスト勉強をするようになってから授業の理解度が上がり、逆に勉強することが楽になりました。まず登下校時の電車の中で単語帳を開くだけでも大きく変わるのだと思います。電車通学の方は乗り過ごしに気を付けて是非試してください。もう一つ勉強法を上げるとするならば、外で自習しまくって家で遊び休みまくることです。私は部活動の疲れなどのせいなのか、家では眠たくなったりスマホの誘惑に負けたりして全く集中力がありません。初めは無理矢理勉強してやろうと頑張りましたが、結局長く続きませんでした。そこで逆転の発想

をひらめきました。家では極限までリラックスすることに努め、勉強することを諦めました。その代わりに学校や塾の自習スペース、高校の近くにある歴史館などを多く利用し、登下校時の電車内の時間をうまく活用するなどして、外で勉強を済ませました。自分と同じような性格の人には是非この勉強法をおすすめします。

3 後輩へのアドバイス

やりたいことや進路なんてコロコロ変わるし、早くから自分を一つだけの道に絞るのも勿体ない気がするので、高校では幅広い視野を持って自分の可能性を試しまくってください！勉強なんて意味ないと思っても自分の選択肢を広げるためには勉強が必要になります。

あと私は支えられて生きてきたのでこれだけは言えます。困ったときは友達や先輩、先生に頼りまくりましょう！

Xさん 【立命館大学 生命科学部 応用化学科】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は高校1年生から2年生の前半までは、大学は国公立にいくと自分の中で勝手に決めていました。しかし、2年生の後半になり本格的に志望校を決定するため大学を調べていく中で私立大学に惹かれていきました。そして、立命館大学が私の学びたいことと一番合致していたため受験することにしました。私にははっきりとした夢がなく理科全般を学びたいとっていてこの私の希望が実現可能であったことが立命館大学にする1番の決め手となりました。

2 学習計画とその内容・方法

私は部活をしていた2年生までは、平日夜7時までの練習に加え土日も部活が半日あったため部活中心の生活でした。しかし、学校のテストで良い点数を取っておくと進路選択の時に選択肢が増えるという思いで合間を縫って勉強を進めていました。具体的には、まず授業で内容をしっかり理解し後で始めから勉強しなければならない状況をつくらないようにしていました。また、テスト勉強は2週間前から取り組むようにしていました。2週間前から1週間前にかけてまず問題集を1周し、暗記科目は早く覚えてしまうとテストまでに忘れる可能性があるのでおおまかに覚えることを意識していました。1週間前に入ると本格的に暗記科目に取り掛かり、問題集は1周目で間違えたところを解き直していました。暗記は寝る前に行い、朝起きた時に定着しているか確認するという手順で行っていました。テスト期間は自分を追い込むために、塾の自習室に行き勉強しなければならない環境づくりをしていました。私は物理が苦手だったため、先生にテストに出ると言われた問題を完璧にするという勉強スタイルをとっていました。教科によって得意・不得意が必ずあると思うので、どうすれば点数を効率よく取ることができるとかを早い段階で理解することが大切であると思います。高校になって初めて習う教科は特に部活の先輩方にテストの傾向を聞くことがとても有効だと私は思います。

3 後輩へのアドバイス

学校の勉強をおろそかにしないことが大切だと思います。3年生になってから指定校推薦やその他推薦入試を受けようと思っても1・2年生の成績が悪く出願することができず、後悔することのないよう

にするためです。入学当初に考えていた進路から変わる可能性は高いため、自分の進路決定時の助けとなるようにテスト勉強はしっかり行うようにしてください。また、疑問点はすぐに友達に聞くなどして解決しておくことが大切だと思います。受験勉強をする際に分からないところが大量に出てくると不安につながるからです。そして、受験期はプレッシャーに押し潰されそうになることが多々あると思います。そんな時は友達に頼って気持ちを楽にすることがとても重要です。勉強や学校生活に悔いが残らないように頑張ってください。皆さんが自分の思い描く進路に進めるように願っています。

Yさん 【 立命館大学 スポーツ健康科学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は高校2年までは将来やりたいことなどはっきり決まっていませんでした。しかしある日テレビで、筑波大学大学院で研究をしながら走り幅跳びの選手として活躍されている戸邊直人さんの特集をみました。その時初めてスポーツ健康科学という分野に興味を持ちました。そして2年の夏、実際にオープンキャンパスに訪れてぼんやりと筑波大学を志望し始めました。

2 学習計画とその内容・方法

1年から2年の前半までは、日々の小テストや定期テストなど目の前にある課題を着実にこなすというスタンスで勉強に取り組みました。私は部活をやっており、家から学校まで遠かったので通学の時間などスキマ時間を有効利用しながら授業の復習や単語の暗記をしていました。そして私が実際に受験を意識し始めたのは、2年の後半からでした。平日は部活の後は塾の自習室に行きはじめ、休日は部活の前後のどちらかに、学校で自習をして確実に勉強時間を増やしていきました。また身近な所から受験モードに切り替えていきました。特にやってよかったと思うのは勉強記録アプリです。このアプリのおかげで自分の勉強量の把握ができるだけでなく、仲間との比較によって自分のモチベーションが上がるのですごくおすすめです。そして私が最も時間を費やしたことは模試の復習です。1回模試で出た問題と再びどこかで遭遇したとき、スラスラ解けるのと問題を解くのに時間がかかるもしくは解けないというのはかなりの差です。復習をしたかしてないかという小さな差がやがて雲泥の差を生み出します。だから私は模試をしたその日に復習をするように努め、繰り返し同じ問題を解く習慣をつけました。

3 後輩へのアドバイス

私は共通テストが振るわず、筑波大学の受験は諦めました。私が志望していた学部は共通テストと実技試験という試験内容で、共通テストの教科も絞られていました。だから第一志望を諦めるという判断に至ったときほかの大学の選択肢がかなり少なかったです。高2の段階で教科を絞って勉強したことは早すぎたと今になってとても反省しています。受験は何が起こるかわからないので本当に様々なことを予測しておくべきです。また、思い返すと私は模試で良くも悪くもない結果を出し、そのたびに「ワンチャンいけるかも。」という中途半端な自信を持っていました。しかしこの中途半端な自信が私を慢心させました。この経験から私が伝えたいのは、第一志望が今の時点ではっきりしているなら、「絶対受かったら」という強い気持ちで挑んでください。受験にワンチャンはありません。受験を通して成長を実感できるように頑張ってください。

Zさん 【 立命館大学 経営学部 】

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、入学と同時に部活と勉強の文武両道に励みました。1日1日を必死に文武両道を実現するために努力しました。時間がない中で効率良く時間を使うには、要領を掴むことが大切です。授業中に、いかにたくさん吸収できるかがカギです。睡眠を2の次にしてしまうと、後々身体に限界が来ます。そのような生活を1・2年生で送り、将来の事など目の前のことをクリアすることに一生懸命で考えたことなどは一度もありませんでした。3年になり、ドラマを見ている時にふと、企業を自分のアイデアで作り出していきたいと思ったのがキッカケで、立命館大学経営学部に入學しようと決断しました。

2 学習計画とその内容・方法

学校から家までの距離が遠いこともあり、移動時間をいかにうまく活用できるかが成績を取るためには必須だと思います。

スポーツクラスに所属している人は特に、テスト前でも日常と変わらず部活動があると思います。そうすると、中々勉強に時間が当てられないことがたくさんあるはずで、なので、普段の授業はもちろん、電車の移動時間に少しでも単語を覚えるなど1日1日の積み重ねが大切になってきます。

成績を取るための1つの方法としてオススメなのは、過去の問題を使って先生の問題の出題の傾向を見つけることが出来れば、テスト前の時間が無い中でも高得点が狙えるので、試行錯誤してみてください。周りで分からないことがある友達がいたら、完璧な説明は出来なかったとしても、人に伝えることで自分の理解は必ず深まります。助け合いながらテストを乗り越えてほしいです。

3 後輩へのアドバイス

入学した当初とかは、毎日毎日が大変なことの連続で、将来の事を考えている余裕はないかもしれないです。でも、自分に甘く成績を落としてしまうと、選択肢の幅が一気に狭くなり、どこかでやりたい事が見つかった時に1・2年の成績が足りず、行けないことほど悲しいことはありません。

そのようなことを避けるためにも、授業中に眠たい時はツボを押すか、息を止めるなど工夫をして乗り切ってほしいです。

そして、高校3年間の中で、テレビを見ている時なのか、いつものように通学路で自転車に乗っているときなのか、いつ、どこで、夢というものが見つかるかは分かりません。見つかった時は、その夢を実現させるための行動を逆算して、今、どういう行動を取るべきなのかということを導き出せば、少しずつゴールに近づいていくはずで、

夢が見つかるまでは、1つ1つの壁を乗り越え、見つけた時に良いスタートが切れるよう最善の準備をして、必ず掴み取りましょう。

αさん 【 関西学院大学 社会学部 社会学科 】

1 志望校決定の理由

私は高校で部活動に励むため洛北高校を選んで入学し、進路について親と相談し、深く考え始めたのは3年になる直前で、志望校もうっすら考えてはいたものの、実際その大学、学部について調べて

みるとイメージとは少し違うものでした。それから行くつもりではなかった大学の資料もたくさん調べていくうちに自分が本当に学びたいと思えるような学部を見つけました。また、大学でも部活動をしたかったのでそれも含めて大学、学部を選びました。

2 学習計画とその内容・方法

指定校推薦では、基本どの大学でもある程度の成績は必要になります。成績をとるためにはテストで良い点を取ることが大事になってきます。そのため、テスト勉強は結構頑張ったつもりです。テストは勉強した分だけとれるし、間違いなく勉強はしたほうがいいです。もちろん授業を集中して受けてその時間に理解できることが一番いいと思います。でも部活動を毎日頑張っていたり、夜遅くまで勉強していたり、遊んで疲れていたたりするときもあるので3年間、6、7限の授業を100%で頑張るのは無理です。それでもやっぱり授業はしっかり受けないとはいけません。眠たかったりぼーっとしてしまう時もあると思います。別に授業で完璧に理解しなくていいと思います。毎回の授業である程度の土台さえ理解していればテストの1、2週間前から勉強し始めても間に合います。でも授業を頑張っただけでその都度、理解していくほうが絶対に楽で効率もいいと思います。いろいろな勉強方法があると思います。他人の真似をするよりも自分に合った勉強方法を見つけるのがいいと思います。あとは友達に教えてもらったり、逆に友達に教えたりするのもすごく理解が深まると思います。

勉強は短い時間で集中したほうが絶対いいと思います。長い時間ダラダラやってこれだけ長い時間やったからっていう変な達成感で全く理解できてないよりも細かく分けてこの部分できたから一回休憩とかのほうが理解できると思います。

3 後輩たちへのアドバイス

大学を選ぶときは絶対に妥協してはいけないと思うし本当に行きたいところに行けるようにしっかり勉強したほうがいいと思います。そのために早めから色々な大学について調べたりすることが大事です。しっかり勉強して部活頑張っただけで友達を大切にたくさん遊ぶべきだと思います。将来自分が本当にやりたいことができるように今を全力で頑張ってください。

βさん 【 関西学院大学 法学部 法律学科 】

1 志望校決定の過程や志望理由

僕は中学の頃から興味があった法律学を大学で学んでみたいと高1の時点で考えていました。そのため文理選択は容易に選べましたが、高3になるまで法学部のある大学ならばどこでもよいと思っており、具体的な大学は選べずにいました。そして高3になり、私立はとりあえず有名な大学の方が良いと思い、関西では有名な関関同立のどれかを受験しようと考えました。その中でも留学制度が充実しており、就職に強い関西学院大学に惹かれ志望校の一つにしました。国公立大学では広島大学を志望していましたが、共通テストの得点があまり良くなく、他の国公立大学は興味がなかったので関学の一般入試の勉強だけに専念しました。

2 学習計画とその内容・方法

高1の頃は部活動をやっており、テストの1週間前くらいしか勉強していませんでした。英単語など

の小テストは入学して1～2ヶ月ほどは真面目に勉強していましたが、夏ごろになると面倒になり、ほとんど勉強せず不合格になることがたびたびありました。しかし、英単語は高1の時点である程度覚えておかなければならないと思い、高1の最後らへんにあるボキャブラリーコンテストに向けて単語帳を何度も見返して完璧にしました。

高2では部活動をやめて、苦手だった数学のみ塾に通い始めました。テスト前以外にも数学の問題集をこつこつと解いたことにより定期テストで高得点を取れるようになりました。他の科目も基礎は高2のうちに固めました。

高3では高2までに固めた基礎をもとに演習をして、抜けている基礎があればその部分の教科書を見返すといった勉強をしていました。また、模試で間違えた問題はチェックをつけ、復習も怠らないようにしました。そうすると特に世界史Bと理科基礎の点数が上がるようになりました。関学の過去問は共通テスト後に1～2年分解きました。過去問を解くのは少し遅かったと思いますが、基礎的な学力が身についていたので特に苦戦はしませんでした。

テスト勉強でも受験勉強でも自分の得意なところ・苦手なところを理解して、そこから逆算して勉強を進めれば、おのずと学力は上がると思います。

3 後輩へのアドバイス

僕がやっていてよかったと思うことは高2までにある程度の基礎を身につけたことです。そのおかげで自粛になって学校がなくても演習を進めることができました。基礎も出来ていないうちから過去問などの演習をしてもほとんど意味がないと思うので、焦って基礎を飛ばさないで下さい。また、分からない問題は無視せず、友達や先生を頼るべきだと思います。模試で点数が取れずショックを受けることもありますが、その時は分からない問題に受験前に出会えてラッキーと思い、復習をしっかりとしましょう。

このようにしっかり勉強すれば結果がどうであれ後悔は残らないはずです。やりきらないのが最も後悔が残るので多少つらくても我慢して、周囲の人たちも頼りながら、志望校に向けて頑張ってください。